

## 【研究概要】

A 救命センターでは、新型コロナウイルス感染症の第1波より患者を受け入れた。第4波で入院されていたA氏は、重症呼吸不全に対し人工呼吸器と人工心肺装置の装着、腹臥位療法を実施した。厳格な感染対策を必要とする状況下で、16日間の腹臥位療法を実施したA氏は、右頬に褥瘡の発生を認めしたが、深達度はNPUAP分類ステージⅡ度に留まった。A氏に対する後ろ向き観察研究を行い、NPUAP分類ステージⅡ度の深達度に留まった要因を明らかにし、今後の腹臥位療法に対する包括的褥瘡予防対策に役立てることを目的とした。